

## 会議録

会議の名称	第5回 西東京市総合計画策定審議会
開催日時	平成20年3月26日(水曜日) 午前9時30分～
開催場所	西東京市役所田無庁舎 5階502会議室
出席者	斎藤隆雄会長、奥野英子副会長、熊田博喜委員、小林康男委員、浜昱子委員、渡辺進委員、本橋定昭委員、栗村千代丸委員 (事務局)飯島享企画政策課長、古厩忠嗣企画政策課課長補佐、森谷修企画政策課主査、増岡利典企画政策課主任
議題	1. 開会 2. 西東京市総合計画策定審議会第3回、第4回会議の会議録について 3. 西東京市総合計画(後期基本計画)素案について 4. その他
会議資料の名称	(参考1)資料1 後期基本計画体系図(案) (参考2)資料2 審議委員ご意見まとめ (参考3)西東京市総合計画(後期基本計画)素案目標値の考え方について(案) (参考4)後期基本計画における重点プロジェクトの考え方 (参考5)平成20年度西東京市総合計画(後期基本計画)策定事業(案)
記録方法	全文記録 発言者の発言内容ごとの要点記録 会議内容の要点記録
会議内容	

< 発言者名 >

1. 開会  
事務局

それでは西東京市総合計画策定審議会の第5回の会議を開催させていただく。  
なお、本日は高崎委員、福田委員、水谷委員の3人の委員から欠席の連絡をいただいている  
(その後松行委員からも欠席の連絡をいただいた)。

2. 第3回、第4回会議録について  
斉藤会長

会議2番目の項目として、第3回と第4回会議の会議録について修正等があればお願いしたい。

それでは異議がないので、ご承認していただいたものとする。  
議題に沿って会議を開催する。

3. 西東京市総合計画(後期基本計画)素案について  
事務局

会議3番目の項目として、西東京市総合計画(後期基本計画)素案について、事務局から説明する。

事務局

前回の会議では、施策体系案等をお示しし、委員の皆様から頂戴したご意見を踏まえ、西東京市総合計画(後期基本計画)素案を作成しているので、その内容についてさらにご意見をいただきたい。

内容がかなり多いので本日の進め方については、6つのまちづくりの方向を2つずつ3つに分けて、(1)「創造性の育つまちづくり」「笑顔で暮らすまちづくり」というようにまとめて、ご議論をいただきたい。本素案については、庁内各課にも配布し、内容の確認を行っている。

本日いろいろご意見をいただけると思うが、庁内各課の意見を踏まえ、4月に「中間のまとめ」というようなイメージで本審議会のご意見をまとめたものをいただければと思っている。あくまでもこの会議で全部一斉にということではない。改めて4月以降のスケジュールは、資料4にあるように、4月に入ったら「中間のまとめ」ということで整理するが、それ以降中間のまとめをベースに、各市民参加を行いながら、あるいは将来のビジョンを示していきながら、今年の10月ぐらいを目途に最終的な答申をさせていただく。まだ半年ぐらい皆様にご議論いただきながら進めていきたい。その間市民参加等、いろいろあるので取り組んでいく。庁内においては、この計画のためにいろいろな個別の計画があり、これらが更新の時期を迎えるので、個別の計画の議論も庁内で進めていく。ここで、当然ながら、基本計画との関係が出てくるので、審議会に話をさせていただきながら、進めていく。あくまでも今日は日程の今後の確認はさせていただくが、内容についてはまだまだご意見をいただく部分がある。

インテージ

資料説明、「創造性の育つまちづくり」「笑顔で暮らすまちづくり」について(略)

A委員

正式名称、西東京市後期基本計画のキーワードはまちづくりで、「まち」がひらがなになっているが、計画の全体像を考えたときに、市民は、西東京市イコール「まち」と取

るだろうかという疑問がある。「まち」というともう少し身近な小さなものを考えるので、西東京市と「まち」との言葉の関連性が、わかりづらい。ここではまちづくりというのは市の中の大部分を捉えられているのだろうかという感じである。

事務局

これは来年度10月以降のまとめ方になってくると思う。総合計画の中では、始めにということで目的みたいなものを記載している。この計画はまちづくりの羅針盤であるという見方をしている。掲載していかないとわからない部分があるので前段の書き込みを整理したものを、今ご指摘があったものを含めてご提案できればと思っている。

B委員

「まち」というのは、前の基本構想のときにも使われていて、ここで新しく出てきた言葉ではない。当初考えられたことかどうか、あるいは当初明確でなかった部分を明確にするということを今後考えていくということによいか。

C委員

資料中に、基本構想・基本計画とあるが、考え方は、資料1のどこかに掲載されるということではないのか。

事務局

資料1の、4ページに入っている。基本的に模式図としては同じである。今2つの分野だけを説明したが、4ページは細かく1-1、2-1というように枝まで示したが、2ページはもう少し大きい概念として全体の関係を示している。

D委員

この中で施策の成果指標と目標値というのはなかなかよいと思うが、各施策での成果指標と目標値は、前からあったのか。

事務局

これまで成果指標、目標値というのはない。

D委員

非常にわかりやすいので大賛成であるが、指標などの中身が大変だと思う。内容を見ると、はっきり言って申し訳ないが、どうでもいいような、目標にならないような目標が入っている。

事務局

前期基本計画を後期基本計画に作り直すにあたって、時代背景を考えると、内容としてある程度目標値の定量化の必要性があり、これらの定量化を踏まえた制度づくりが必要と考えている。これまでの手法では行政の施策の成果が見えないということで、ただ示しているものではない。今後、現在の案からどういうふうに進化するかは、これから20年度以降庁内も含めて議論をしていく。委員のご指摘のとおり、今後の各課との調整が大変である。

D委員

目標値の設定内容によっては、市役所自身で事業展開の手足を縛ることはないか。

事務局

市役所自身で手足を縛ってもいい。また、個別事業については、当然、所管課を中心としてこれから調整する。初めての試みなので庁内に素案を配布し、検討してもらっている。

今年の秋の製本までまだ時間があるので詰めていきたい。ただ事業の内容、数値などを

示すだけでは、まちづくりにとって全く意味がないので、そのため、各部署の担当にそれなりの意識を持たせながら、数値や基準を掲載していきたい。

#### A委員

基本構想との兼ね合い、目標値の話だったが、具体的には10年計画の中の後半の計画なので、前期5年の計画の中では、どういうことが行われて、どこまで達成されたかというこれまでの成果をまとめる文章的なものは入るのか。後期にはこれが残されているというものはないのか。私はそういうものがなければ、5年計画にはならないような気がする。

#### C委員

目標値等の考え方については、私は非常に大切と考えている。目標値をどこでどう表現するのかということとはとても難しいが、成果指標と目標値は絶対に入れるべきだと思う。先ほど市役所自身で手足を縛ると言ったが、絶対に入れたほうがいいと思う。ただ、A委員が言われたように前期5年の計画の中にはそうした目標値がなかった。後期5年の計画から急に出てくることになるが、今後、目指す方向性ということ意味でいいのではないかと思う。これまではいろいろな施策に対して目標値がなく、それ自体がおかしかった。これまで目標値がなかったことについては素直に反省して、目標値の必要性に気がついたというイメージで後期計画につなげればいいと思う。前期計画の達成度については特段、必要ないのではないかという気がしている。

#### 事務局

前期計画にも出ている重点プロジェクトを中心に、後期5年での事業体系がまた大きく変わってきている。前期計画の事業の達成度を全て定量的に管理していたわけではないので、全て把握するのは厳しいかと思うが、委員の方々が言われるように、事業体系が変わった時に、どこが変わったか、達成した事業は何だったのかを一目で見たい、知りたいという考えも理解できる。前期計画と比べて後期計画では事業ベースでどこが大切なのか、どの事業が終了したとか、必要であれば後期の計画の中にサンプルとして出すことはできる。

#### 事務局

事業体系についての説明の詳細はこれから検討していく。初めて読む市民にとっては、開いてすぐに政策体系を考えるのは理解しづらい。まず始めにどういう考えで基本計画が作られたのかに説明し、前期計画を部分的に踏襲しながら作らねばならない。また、多少の解説が入っていかねばならない。

ご指摘があったように、市民にわかりやすい計画にするためには、前段の説明部分をどういう形で作っていくかが重要。これからアイデアをいただきながら全体の構成を作り込んでいく。

#### 斎藤会長

ここまでの議論でポイントは2つある。1つは後期計画の目標値をどの程度まで設定できるかという点、もう1つは過去5年間の達成度という点である。A委員は過去5年間の達成度を入れるべきだと言われた。

#### A委員

基本構想の10年計画の中の前期5年間でどこまで達成されたかという文章が必要だ。また、これからの5年間についての思いを文章にした方が良く思う。可能であれば目標値もある方が良い。

#### B委員

過去の評価があって、今回の後期計画を作っている。過去5年間の指標や目標値はなかったもので、過去の達成度を数値で示すことはできないと思うが、今回の後期計画の達成度の指標については何らかの形で論理的に示した方が良い。

質問だが、例えば9ページに、分野全体に取り巻く状況とか、あるいは15ページだと施策を取り巻く現状とあるが、過去5年間の評価や市民アンケートの結果を柔らかく入れることは可能か。

インテージ

分野全体を取り巻く状況、施策を取り巻く現状ということで過去5年間についての文章を入れることは可能。

B委員

過去5年間についての文章は、十分達成された、あるいは達成されていないという意見が多いとか、どういう表現をするかはいろいろあると思う。例えばそうした過去5年間についての文章に書いて、右側にある今後の目標や課題と矢印でつなぐと、一応過去5年間の評価、今回の策定のポイントをトップに表現できるかと思う。

A委員

今回のアンケート調査から出された市民の意見を入れても良い。ただスペース的に余裕がなくなってしまうのではないかという心配がある。

インテージ

今回の後期計画の作り込みにあたってはスペースを多めに取ってレイアウトを作っているので、市民アンケートの結果についての文章を入れることも可能である。

E委員

市民としては、総合計画の文章があまりに多くて厚すぎると読む気が起きないのではないかと。私としては、市民にまず総合計画を読んで欲しい。社会状況や西東京市が過去5年間行ってきたことの現状の中に評価を入れることも重要だが、今後の5年間で総合計画の最終目標にどこまで近づけるか、ということに視点を置いた方が現実的だと思う。今後についてスリムに表現した方が市民にわかりやすく、読みやすい。だから長々とした文章にして欲しくない。

事務局

10ページにあるように、市民の意見をグラフで示すという工夫はしている。現状についての記述の中でも過去5年間の取組みを書いているが、限られたスペースの中でどこまで詳細に書けるかが問題である。他の計画や市の刊行物でも文章が多いと読んでいただけないということがある。最近は図を使わないと広く市民全般に見ていただけないのは事実である。

D委員

成果指標と目標値についてだが、全部が数値でなくてもいいと思う。数値として出さなければいけない部門もあるし、定性的な部門もある。各部門でどの程度まで数値として出せるかを検討して成果指標と目標値を出していただければ良いと思う。最終的には、数値目標が明確になってくるので数値的なものが増えてくると思う。今回のような成果指標、目標値というのは、西東京市が初めてなので全国的に注目を集めることができると思う。検討の方向性としては非常に良い方向に向うのではないかと考えているので、できる限り数値的な指標や目標値を入れて欲しい。

F委員

成果指標についてだが、例えば12ページで非核・平和行事への参加人数であるとか、平

和・人権擁護が「重要ではない」「あまり重要ではない」と感じる市民の割合の2つが出ています。今日ここに示されている成果指標は調整中なので、そのまま完成版に載せるのではないことはわかる。しかし他の成果指標でも良かったのではないかと指摘されないように、成果指標に選んだ根拠を示した方が良い。何を成果指標にするかによって達成できるかできないかが決まってくるので、内容、検討方針等について改めて検討する必要があります。

G委員

今検討しているのは総合計画であるが、計画というのは10年を目標にしても達成できるとは限らない。総合計画に基づいての実施計画を出すわけだが、当然優先順位をつける必要が出てくる。資料2のように総花的では本当に実行できるのかという疑問が出てくる。その疑問を解消するためには、市民が計画の考え方をもう少し理解できるように全体の論理的な枠組みを作った方が良い。分野全体を取り巻く状況というのは、現在の視点からのもので、5年経過すれば状況が変化する。そうした変化にも対応できるようなまち全体についての考え方が計画の冒頭に出てくるとさらに理解しやすくなると思う。

D委員

分野ごとの優先順位はもちろん必要だと思う。全部で大きな柱が6項目挙げられているが、これらは全て均等で、その中の施策もまた全て均等である。G委員が言われたように、まず6つある柱の中で特にこの分野のここが重要だという重点の割り振り方が重要である。始めに重点の置き方をしっかり書いておくと、市民も理解しやすいと思う。

E委員

重点政策は今回の後期計画の策定と並行して進んでいるのか。5年後に向けた重点プロジェクトについて違う会議で検討されているが、それがこの後期計画に反映されなければならない。その重点プログラムの会議で、今後、西東京市では何に重点を置くかについて検討しているので、その会議と連携する必要がある。どこに重点を置くのかを改めてこの審議会で決めるという話ではない。

D委員

重点プロジェクトの会議の結果をこの審議会で報告してもらえばよいと思う。

事務局

重点プロジェクトについては、今取り組んでいる施策について推進委員会で一生懸命にやっていたので、大きな施策の議論の中で落とし込んでいきたい。

A委員

今話に出たが、後期計画の冒頭の部分の内容についてはどのようになるのか。

事務局

調整中であるが、本編に入る前の前段で後期計画が目指すまちのあり方、前期計画5年間についてお示しできるような形にしたい。イメージがかみ合わないようなところもあるので、今いただいたご意見を組み入れた形に作ってきたい。

B委員

こういう審議会の作業としては、具体的な事業の重点化にはあまり踏み込むべきではないと思っている。社会情勢や重点化すべき分野の変化によって、この基本計画が障害になっているようなところがあったら、この計画は見直さなければいけない。

事務局

重点プロジェクトは今、会議を進行しながら、どういう意味合いを持たせるかという議論をさせていただいている最中であり、その結果は改めてお示しをしたい。何を重点にす

るかは、フリーハンドで議論ができるわけではない。お手元の冊子の45ページにあるように、そもそも基本構想の中に4つの理想のまちを掲げている。その4つの理想のまちに一步でも近づくために、あくまでも計画の中で事業を決めた中でどれを関連付けて、どれを重点化してみようかというところでスタートしている。後期計画でもこの4つを実現するために、後期の計画の中のどの事業を意識したらいいだろうかという議論になる。

後期の基本計画の体系の中でどういう事業をやっていくのかというイメージと重点プロジェクトがリンクしていると良い。後期基本計画としてどのくらいの事業性を持とうかということ、基本構想の4つのまちに対して今までやってきたことを踏まえてなければならない。それがあって後期計画での事業の重点化の裏づけのようなものになる。そうした基本構想、重点プロジェクトとの関連のところの情報提供が少しできていなかったもので、今後お示ししたい。

齋藤会長

今の議論は、先ほど説明があった2つの分野というのではなくて、基本計画全体のものも大分入っている。

インテージ

資料説明、「環境にやさしいまちづくり」「安全で快適に暮らすまちづくり」について（略）。

D委員

データがあったほうがいいと思う部分があるので少しお話する。雨水の溢水対策で西東京市のどの部分が一番危ないのか。防災ために簡単なマップを添付してもらおうと良い。読んだときに概略がわかると理解できる。例えば新青梅街道はこうなっているというものである。

事務局

雨水の溢水対策のマップについては詳細なものはない。市として、市内で雨水被害が想定される地域については把握している。

D委員

簡単なマップで良い。具体的なイメージが見えて、市民が「ああ、そうか」と理解できる程度のもので良い。おそらく詳細までは皆さんは見ない。

E委員

今日の話では後期基本計画の概略ではなくて、具体的なイメージまで入っていいのか。あまり細かいところまでいくと議論が最後まで行かないということもある。事業群をあとにして、後期基本計画の考え方や全体のことがあると思う。

齋藤会長

今日は6つの分野を2つずつにわけている。話の中身は2つの分野に関係したことはあるが、先ほどの議論は後期計画全体の話が委員の関心事であった。非常に細かい個別の話は、あとで事務局に言っていただければ反映できると思う。

事務局

今日の審議会のあとに一定の期間を設けたい。資料に目を通す時間があまりなかったという申し訳ない部分もあるので、また新たに気づかれた点については事務局に言っていただければと思う。

E委員

今、雨水の話が出たので触れたいと思う。いつも雨水が溢れるところがあって、これま

ですと施策としては出ている。しかし毎回毎回、雨水対策の内容がどういうふうに変わってきたのかということが市民にはわからない。これまでずっと同じ内容でやっているわけではないと思う。例えば今年度なら今年度で、雨水対策の課題が出てくると思うが、何年経っても雨水対策がまだできないのかという思いはある。

事務局

地域の変化もあり、事業が追いついていないということも事実としてある。対策は毎年度繰り返し実施している。

E委員

雨水対策の事業内容は昔と比べて変わっていると思う。今までできなかったものをできるようにする予定になっているということで、対策の内容について書いても良いのではないか。問題がいろいろ出てくる中で、雨水対策という同じ言葉が出てくると何をやっているのかと思う。内容が変わっているなら、その変化が見えてくると市民にとってはわかりやすい。

事務局

雨水対策として、雨水を貯めて流すような対策のほうが良いのではないかなど、試行錯誤している。コラムなどの形で雨水対策の内容について表現しても良い。

G委員

基本構想の中に後期基本計画の内容は反映されるのか。

事務局

基本構想までは変えない。基本計画の部分だけが新たな後期基本計画に挿し替わるというイメージである。

C委員

112ページに他自治体の動向とあるが、選択基準は何かあるのか。個人的には、他自治体の動向は今載せてもあまり意味がないのではないかと思う。

インテージ

現時点で先進的であろうという自治体を選んでいる。例でいうと、板橋区での「住宅の耐震無料相談会」事例等を、新聞記事等で今調査している。現時点で東京23区、東京26市など、西東京市近辺で参考になるであろうと思われるものを選んでいる。今回の後期計画策定にあたっての事業の見直しの実施に向けて参考になるかもしれない。参考になると感じているものをこの中に入れる方針である。

A委員

他自治体の動向はあって良いと思う。全体として、高校生が読んでもわかりやすい良い作りになっていると思う。

事務局

他自治体の動向については、ただ載せれば良いというわけでもない。西東京市で実現できるのかということも考えて、市としても取捨選択しなければならない。

D委員

ごみの問題について不満がある。経済的な状況などが今後変わってくるので、今後こういうごみ対策をやっていくというのは現状からの予測である。東京都はごみの減量化という良い面が書いているが、ごみの減量というのは費用がかかる。料金負担などの現実的な問題についてきちんと触れてほしい。もう1点、ごみの減量化と料金負担との関連についての情報公開をしてほしい。

E委員

ごみ問題は後期計画に絶対に入れなければいけないと思うが、総合計画の中に全ての情報を入れてしまう必要があるのか。

事務局

ごみ対策の費用対効果については後期計画に入れることもできるが、報告などの別媒体での発信も考えている。確かに今日配った資料は、単純にこの総合計画の中の話である。前期計画でも参考資料程度しか説明がなかったので、今後丁寧な説明をする。

インテージ

資料説明、「活力と魅力あるまちづくり」「協働で拓くまちづくり」について（略）。

F委員

150ページのところで、「まちを支える市民のために～全体構成」と書いてあるが、この大きな目標の中で活発な市民活動、事業群のところでコミュニティ活動について書いてある。例えば、協1-2-3でボランティア活動というようにいろいろ書いてあるが、わかりにくいのではないかと。非常に議論はあると思うが、市民活動やコミュニティ活動はどう違うのかなど、言葉について一定の定義を使わないと読む側も多分迷うと思う。私も言葉の定義がないと、非常にわかりづらい。言葉についての定義をしていく必要があると思う。

E委員

協働については、市民個人と市が協働することはありえない。NPOについては、ボランティアの市民が集まったグループ、団体だったりするのがNPOである。個人としてではなく、ボランティアの団体やNPOと市との協働ということである。市民が参加するということは、いわゆるボランティア活動のように市民一人ひとりが参加して輝くという項目だろうと思う。ボランティア活動がNPO活動と言われることはあるが、個人のボランティアと市が協働するということはない。

コミュニティの考え方も変わってきている。地縁コミュニティはその内容が大きく変化しており、新しいコミュニティというのはそのコミュニティの課題に集まった人々によって作られるものである。サークル活動も含めた新しいコミュニティも考えてから説明するべきである。ボランティア一人ひとりが参加して、その人も輝きながら社会貢献するのであれば、協働とは別の位置づけのところに入れていけないといけない。ボランティア活動、NPO活動を全部1つの項目の中に入れていくのは大変だと思う。

インテージ

コミュニティ、市民、市民と住民の段階、そして協働というのは行政と市民団体、NPOとの協働であるというようなことについての説明については、今回は省略した。

E委員

市民をどんどん巻き込んでいけるようなNPOの活動を立ち上げへの支援が行政の仕事である。個人的な楽しみのサークルで終わってしまうのか、それとも社会貢献を行うようになるのが重要である。例えば高齢者の施設に行き、遊んであげるという形でも1つのボランティア活動だが、そうしたボランティア活動と協働とはやはり別に考える必要がある。最初は一人の個人が楽しむことから活動が始まり、それがどんどんおもしろくなる。やがて余裕がある、人のために考えられる、そういうふうになった団体と行政との協働というイメージだとすごく良い。

インテージ

同様の趣旨を協働の基本方針に書き加えていきたい。

H委員

医療体制について旧田無地区と旧保谷地区での違いがある。旧保谷では救急受け入れをやめた医療機関があるなど、医療関係についての不満の声がかなり聞こえてくる。今回の後期計画の中ではそうした医療に関する不満への対応があまり見られない。

インテージ

笑1-2で地域での高齢者の支援、笑2-1-2で高度医療、救急医療などの地域医療体制の充実について記述している。具体的な地区名としては文章に出せないが、もう少し詳しく書くことも可能である。

H委員

北多摩北部医療機能連携協議会の方が救急医療について、比較的多くの事業を行っている。他市の病院に頼るだけでよいのかという思いもある。特に子どもは夜間に体調を崩すことが多く、このような状況への配慮も必要である。

齋藤会長

全体を通して過去の評価、今後の目標の話が出た。過去の調査、それから重点化の問題について貴重な意見が出た。後期計画全体としてはあまり長くしない、わかりやすくするという点である。大変なところをビジュアル的なものを使ってわかりやすくしていただきたい。今示されている資料の作り方はわりあい理解しやすい。今後のために、今回のつくりこみ、体裁についての意見があればお願いしたい。

E委員

前回の審議会の資料1、2だが、前期計画の項目と今度の後期計画でやる項目の新旧対照表のようなものがあると、わかりやすいかもしれない。文章で変わったことがわかれば、どうしてそうなったかがわかるので、新旧対照表を小さくでも載せておいたほうが良いと思う。

D委員

基本構想の部分は後期計画でも基本的に変わらないのか。

事務局

基本構想は変わらない。概況の数値なども変わらない。ただ新市建設計画が来年度で終了するので、合併の成果について市民に示すことも考えてながら、全体の構想としてわかりづらいところはPRしないといけない。

今日の審議会についてご意見が多数あると思うので、またご連絡をいただければ、今後資料を作る中で参考にさせていただきたい。4月4日までに連絡をお願いしたい。

齋藤会長

了解した。4日までに何かあれば各委員が事務局に連絡して欲しい。

#### 4. その他

齋藤会長

次会の審議会は25日13時から行う。

他になければこれで終わりにしたい。今日はありがとうございました。

終了